

岐阜県農政部施設等評価に関する検討会 議事要旨

1 日時

令和7年9月19日（金） 13:30～14:20

2 開催方法

WEB 会議

3 議題

事業実施地区の効果に関すること

評価対象事業：強い農業づくり総合支援交付金（農産園芸課）

■上位規格の割合が少ないのは異常気象等の影響で規格に合うものが少なくなっているという考えで良いか。

○異常気象の影響は非常に大きく、高温で土壌が乾燥すると大根が肥大しないため L サイズにならなくなる。また、乾燥して栄養が吸収できなくなることにより病気や虫にも弱くなり、見た目もいい AL 品の大根が生産しづらくなっている。現地では新しい品種を検討しながら徐々に選定した品種に切り替えて生産を行っており、支援を続けていく。

■事業費がかなりの金額だと思うが、金額を超えるような効果というのはどこまで出ているのか。天候等に左右されているとはいえ、それに対する県の評価を教えていただければと思う。

○事業効果地区箇所表では事業費に対する効果を金額としてお示しできていないが、農家の作業時間として考えると、収穫が2～3時間、選別調整が4時間くらいかかるので1日の半分以上を占める選別調整をこの共同施設で担うことにより、農家は圃場で作業できる時間が倍になるというところで非常に効果は大きいと考えている。

■県の支援策として適品種選定に向けた支援とあるが、適切な品種を探せば異常気象を克服できるということか。また、産地の労働力不足について、これからこの施設を保つためには一定の収穫量が必要だと思うが、生産者の確保について課題はないか。

○品種選定に関しては、種苗メーカーから高温に強い品種はいくつか出されているが、栽培する産地の気候に合うかという点や、味や見た目、大きさ等の流通業者からの評価も踏まえて品種試験をしながら少しずつ品種を変えていくという流れで進めている。

労働力不足については、大根の収穫は日が昇る前から始められるのが一般的な作業時間

になるため、朝早くから働けるパートを雇用するのは難しい。日中のパートについても最低賃金は上がっているが大根の販売単価が上がっているわけでもないため新たな労働力を雇用するというのも厳しい状況である。また、人口が少ない中で他業種と労働力の取り合いという形になり、農業の生産現場はなかなか選んでもらえないというようなところが課題になっている。農協から外国人労働者の紹介を受けて雇用するという体制も進めている状況だと聞いている。

■施設の写真について、機械は洗浄と選別だけか。

○写真の説明。この施設では荷受けから箱詰めまでを行う。

■この施設は1年のうち、どのくらいの期間使用しているか。

○主に6月から10月に出荷されているため、この期間が使用期間となる。